

2 10大費目指数の動き

各費目の動きを前年比で見ると、食料は外食の値上がりなどにより0.5%上昇、光熱・水道は電気代の値上がりなどにより2.1%の上昇、家具・家事用品は家事用消耗品の値上がりなどにより1.3%の上昇、被服及び履物は衣料の値上がりなどにより0.2%の上昇、保健医療は保健医療用品・器具の値上がりなどにより1.2%の上昇、教養娯楽は教養娯楽サービスの値上がりなどにより1.8%上昇した。一方、交通・通信は通信の値下がりなどにより0.2%の下落、教育は授業料等の値下がりなどにより2.4%の下落、諸雑費は他の諸雑費の値下がりなどにより0.5%下落した。また、住居は設備修繕・維持の上昇があったものの、家賃の下落により、前年と同じ水準となった。

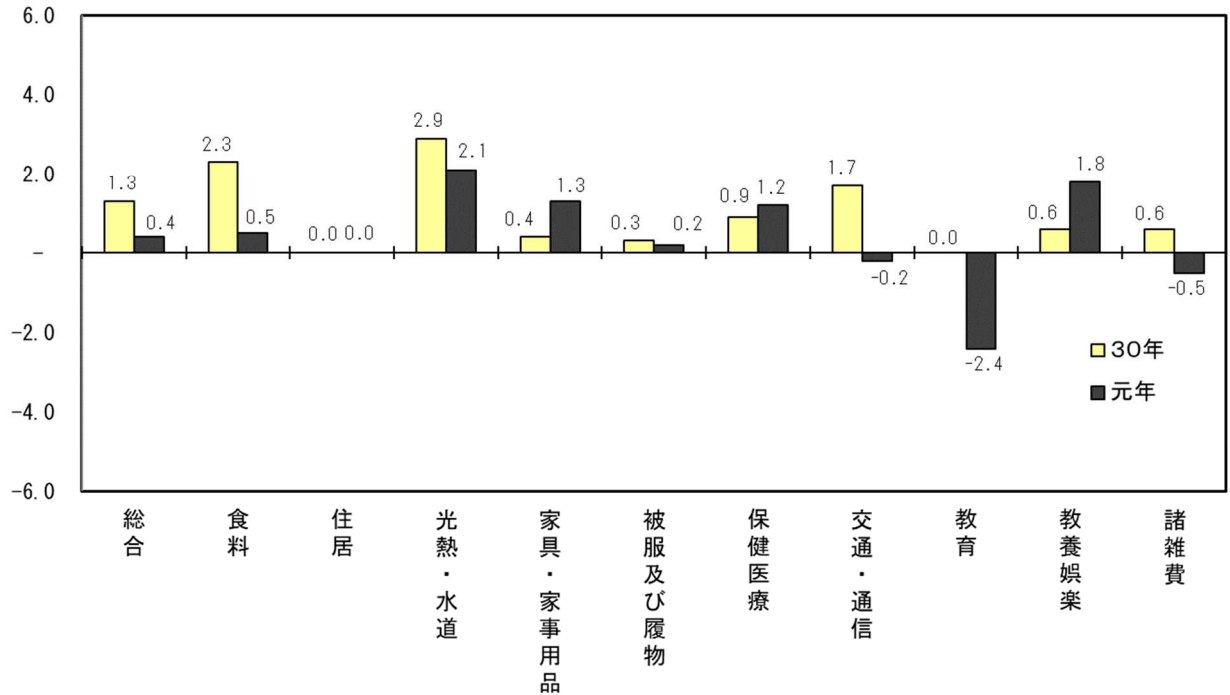
10大費目指数	前年比(%)		寄与度	
	30年	元年	30年	元年
総合	1.3	0.4		
食料	2.3	0.5	0.60	0.14
住居	0.0	0.0	0.00	0.00
光熱・水道	2.9	2.1	0.20	0.14
家具・家事用品	0.4	1.3	0.02	0.05
被服及び履物	0.3	0.2	0.01	0.01
保健医療	0.9	1.2	0.04	0.05
交通・通信	1.7	-0.2	0.30	-0.04
教育	0.0	-2.4	0.00	-0.06
教養娯楽	0.6	1.8	0.06	0.17
諸雑費	0.6	-0.5	0.04	-0.03

※寄与度について

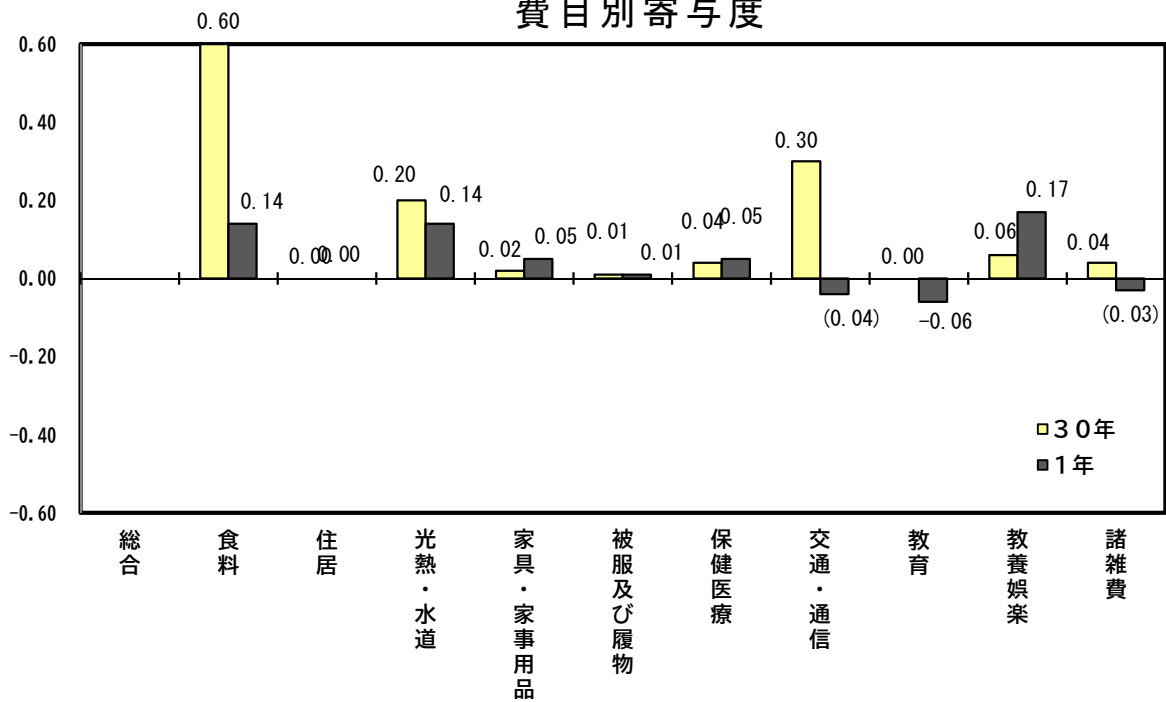
寄与度とは、ある品目又は類の指数の変動が、総合指数の変化率にどの程度寄与したかを示したものであり、計算式は次のとおりである。

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{当期の指数} - \text{前期の指数}) \times \frac{\text{当該項目のウエイト}}{\text{総合のウエイト}}}{\text{前期の総合指数}} \times 100$$

費目別前年比



費目別寄与度



費目別寄与度

